

第六十九回句会 俳句

【高点句】

- ☆八十路なほ少しの弾み初鏡 〈眞澄〉
- ☆歳時記に父の筆跡冬日和 〈青蛙〉
- ☆初日の出古希を迎える覚悟あり 〈雄記〉
- ☆音二色ビルのあはひの除夜の鐘 〈明美〉
- ☆手水なく鈴なく楚々と初詣 〈明美〉

【各自一句】

- ・年賀状「これで仕舞」の文多き 〈眞澄〉
- ・細胞の一つひとつに明の春 〈莫院〉
- ・冬晴に立てるファーストシューズかな 〈郁代〉
- ・正月の凧と貴女の後れ毛と 〈撫子〉
- ・初晴や郵便受けを開けに行く 〈安津子〉
- ・ワクチンにご利益（りやく）込める初参 〈隆司〉
- ・受話器より母の御慶の伊予訛 〈明美〉
- ・枯蓮揺れるその時亀動く 〈一馬〉
- ・静寂のはるか先なる冬銀河 〈青蛙〉
- ・三日はや啓翁桜へ霧吹きを 〈伸子〉
- ・逆転の箱根駅伝第十区 〈緑〉

*以上、34句（3句ずつ11名、1句1名）より、選句は13名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（今回は第3位が同点で3句）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）